

「地域見守り」と「地域後見」による空き家の発生抑制

（NPO法人ライフサポートセンターHAPPY）

課題と目的	「見守り」から「成年後見」「遺言執行：相続完了」までを当法人が受託契約し、地域コミュニティで組織した「（安心・安全）A&Aメンバー」により実行することで、地域の空き家や空き地の発生を抑制する。
取組内容	①地域見守り組織の充実 ②終活プラン作成の啓発と終活相談の活用促進 ③「未来のまちデザインコンテスト」開催 ④専門的知見からのケース会議 ⑤「地域で行う後見システム」体制の構築
成果	・対象地区において、地域見守り活動を担う「（安心・安全）A&Aメンバー」が組織され、地域の高齢者宅への声かけや情報収集がなされた。 ・関連機関との連携を図るための情報伝達フローを作成し、共有できた。 ・地域見守り活動における重要聞き取りフローや優先順位を決める対応トリアージを作成した。 ・「まちづくりデザインコンテスト」を実施し、本事業を広く市民に広報したほか、人口減少時代の町の在り方についての問題提起ができた。 ・地域見守り「A&Aメンバー」の養成講座の講義テキストを作成した。 ・専門家による個別事案への対応例が蓄積された。

理想のまち考えよう 都府のNPO法人がコンテスト

2020年02月13日 17:00更新

都府市のNPO法人ライフサポートセンターHAPPY（八反田久実理事長）は、家の整理を起点にして終活まで考えてもらう取り組みを行っている。今月初めには、3割が空き家になったまちのデザインを考えるコンテストを開催。住んでいる家をどうするか考え、生前に意思を伝える重要性を訴えた。

同法人は、国土交通省の「地域見守りと地域後見による空き家の発生抑制」モデル事業に採択され、見守りや成年後見、遺言執行などに取り組んでいる。コンテストはその一環で実施した。

同じ地図を使ったまちづくりを公認し、市内の350個人・団体から約300点が集まった。イオン都府ショッピングセンターで公開審査を実施。入選者は2分間で、理想とするまちを説明した。審査員4人は、実現性など5項目を各5点満点で審査した。

個人・町の部で最優秀賞を獲得した祝古小5年桑畑陽さん（11）は、動物も人も笑顔になる「元気いっぱい笑顔のまち」を提案。動物保育園や自然あふれる図書館、本やカフェを備え交流できる「まちの笑顔屋」を配置した。

雨が降っても遊ぶまちを考え、家族の部最優秀賞になった祝古小4年小玉琢等君（10）は「家族でまちを考えるのは楽しかった」と笑顔。母親のはるみさん（45）は「理想のまちを話す中で、子どもにどう地域を引き継ぐのか考える良い機会になった」と述べた。

八反田理事長は「空き家が増えれば地域の資産価値が下がる。家をどうするか考えることは人生を考えることにつながる。意思を子孫や周囲に伝え、全体で地域づくりを考える必要がある」と話した。

＜地方新聞・デジタル新聞に掲載＞

取材をもとに、記事の内容も本事業の趣旨を捉え、きちんと整理した形で市民に伝えられた。

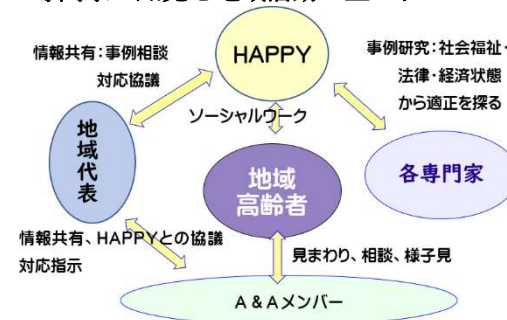


空き家を生かした理想のまちづくり案を発表したコンテスト

＜A & Aメンバーの研修の様子と証明用名札＞



＜専門家の知見を地域活動に生かすPDSC＞



＜関連機関と情報の伝達＞

